令和4年3月9日（水）

（朝日新聞）まずコロナの感染症対策について、市長からお願いします。
（上定市長）それでは、最初にコロナ感染対策について4項目お伝えします。
　まず感染の状況についてです。 今年の1月からの感染者数の推移ですが、昨年10月6日以降は感染が確認されず、ゼロの状態がずっと続いておりました。1月3日に4人確認され、その後昨日3月8日まで、非常に高位に推移し、現在も40人台が続いている状態です。感染者の内訳ですが、いわゆる端緒者といいますが、その方が最初の感染者になり、そこから広まっていった方のことですが、以前は、1人の方から感染する方の数が限られていました。端緒者の人数はそれほど変わっていませんが、その人から多くの方に感染が広がっている状況が見てとれ、これがオミクロン株の特徴と言われているところです。次に10万人当たりの新規感染者ですが、島根県全体に比べて、松江市は、1月の当初は感染がそれほど多くありませんでした。石見部あるいは出雲市等で感染が多かった状況を経て、1月末あたりから、松江市が上まわり、増加の傾向が見受けられます。次に集団感染、いわゆるクラスターの発生状況です。デルタ株による、令和2年の4月から昨年の12月までの1年9か月の間の件数は10件でした。それが、この1月以降は27件となっています。オミクロン株の特徴として、非常に感染力が強く、集団感染、クラスターが発生しやすいです。施設に偏よりもなく、福祉施設、保育施設、飲食店、事業所、学校、また、自宅での会食などで発生しています。また、クラスターは5人以上の集団感染ということになりますので、最近の核家族化もあり、自宅での会食のクラスターは多くないですが、実態としては家庭内での感染が非常に広がりを見せています。
　年代別の感染者を、3月1日から8日までの9日間、合計349人について見ると、満遍なく各世代に広がっている状況です。ただ、人口割合で見ると、10歳未満、10代、20代が多いということにはなりますが、いずれにしても、世代を超えて感染が拡大している状況です。感染の経路については、半分以上が家庭内での感染、続いて職場、また学校・保育施設、そして会食という順になっており、家庭内での感染が非常に増えている状況になります。
　それを踏まえまして、市民の皆様へのお願いでございます。改めて皆様に周知し、もう一度具体的な取組についての確認をしていただきたいです。まず個別の取組として3つ。①家庭内にウイルスを持ち込まない、②家庭内で感染を広げない、③松江市民らしい気遣い・思いやりを忘れずにということです。1つ目のウイルスを持ち込まないについては、正しくまずマスクをつけること、人との距離を保つこと、自宅に帰られたら、あるいは出先でも、石けんで30秒以上手を洗う、またうがいをするといった基本的な対策、行動が非常に重要と考えております。家庭内で感染を広げないために、30分に1回程度換気をする、料理はあらかじめ取り分けて、大皿からみんなでつつくということをしない。また、各自のコップあるいはタオルを使うということも非常に重要です。そして、気遣い・思いやりを忘れずにというところ、家族みんなで健康管理をし、体調が少しでも悪いと感じることがあれば、早めに医療機関を受診し、お互いに思いやりの気持ちを忘れないでいただきたいと思います。次に、団体・集団における取組ということで、まず小・中学校については、風邪の症状や体調不良があったときは休む、給食を食べるときは黙食し、同じ方向を向く、卒業式や入学式など必要不可欠な行事においては、時間を短縮し、出席者を絞るという対策を講じるようお願いをしておりま

す。部活動において、現在行っている取組として、市内外を問わず、練習試合など、ほかの学校と交流する活動は禁止。指導者は常にマスクを着用する。大会の参加は公式大会のみとする。市外の大会はガイドラインに沿って検討して決定するということを既にお願いしています。今後、各校で行う取組として、活動時間を、平日90分以内、土日・祝日は120分以内とします。また、週当たり2日以上の休養日を設ける。手洗い、競技中以外のマスク着用、一定の距離を取る。昼食を挟まない活動とし、やむを得ない場合には黙食を徹底するということをお願いしてまいります。

次に、保育所・幼稚園における感染対策です。朝夕の合同保育を複数の保育室で行うなど、接触者の数を減らす。異なる年齢やクラスが一緒になる保育や活動を避ける。フリーの保育士や実習生が入るクラスを固定します。

児童クラブについては、校庭や体育館などの広い場所で活動する。室内では定期的な換気とマスクの着用。おやつは時間差を設け黙食をするということを徹底していただきたいと考えております。

福祉施設における感染対策として、少しでも体調が悪ければ出勤を控える。入浴介助の際も、マスクを着用する。利用者が常時マスクを着用することが難しい場合は、場所や時間を選んで着用をお願いをするということでございます。

次がスポーツにおける感染対策でございます。競技団体のガイドラインを踏まえて活動する。大人数を避け、時間や場所を分散してプレーをする。給水用のボトル、コップなどは共有しないということの徹底していただきたいと考えております。加えて、屋内の施設では、ドアを広く開け、普段以上の小まめな換気をする。用具、器具等は消毒液等を使用して清掃を行う。ミーティングではマスクを着用して距離を取るなどの基本的な感染対策を守る。

飲食の場面においては、これは島根県が出している指針ですが、4人以内、2時間以内にする。会話の際にはマスクを着用する。間隔を空けて座るといったところを徹底する必要があると考えております。

本市の取組として、今後も情報発信と感染対策に取り組んでまいります。1・2週間に1回程度のチラシを作成し注意喚起を行います。感染の情報についての分析を分かりやすくグラフ等にまとめ、その時々の状況に応じて感染対策のための取組について皆さんにお願いしていくということを継続してまいります。

また、保健所の体制も強化します。通常時、職員数62名で保健所は運用しておりますが、現在、約2倍に増員している状況です。市民の皆さんの生活、医療に支障がない形で必要な人員を整えておりますので、ご安心いただければと考えております。

最後に、ワクチン接種についてです。 1つ目が3回目接種のご案内です。3回目接種の、3月9日8時半時点の接種率は、全人口に対して20.5%という状況です。2回目接種から6か月が過ぎた方に接種券をお送りしております。接種券が届きましたら、事前の予約で接種が可能な状況となっております。もう一つは、5歳から11歳のお子さんのワクチン接種についてです。3月4日までに、対象となる方に接種券を送付しています。接種券と一緒に、厚生労働省によるリーフレット等を同封させていただいております。そこに接種の効果、あるいは副作用についても明記されております。こういった文書を判断の材料としていただいて、接種を受けるかどうかのご検討をお願いします。このワクチン接種は強制ではありませんし、努力義務というのも課されていません。そういったことも踏まえ、接種を希望する方は松江市立病院、あるいは市内の小

児科医院で接種することが可能となっております。

今回、こういった形で提示したことを踏まえて、皆さまにも感染予防の取組を強化していただきたいと思っておりますし、また、状況に応じた形で、タイムリーに注意喚起も行います、何とぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（朝日新聞）10万人当たりの感染者数の増加の斜度が急であるということですが、この原因をどのように受け止めていらっしゃいますか。

（上定市長）大きく増えているときはクラスターが発生しているという状況もありますが、基本的には家庭内を中心として、世代としても満遍なく広がっているという状況ですので、逆に言うと、全体として広がっているところを抑えていくのに時間がかかっていると見ております。ただ、このまま爆発的な増大につながらないような策を適切に施していかなければならないという認識を持っています。

（朝日新聞）基本的というか、常識的な対策かなと思いますが、目玉といいますか、今後の対策としての主立ったものというのはどんなものがあると思っていらっしゃいますか。

（上定市長）例えば経済活動を止めてしまうといいますか、例えばまん防が適用されていたのと同じような状況に置くことで感染がおさえられるという面はもちろんあると思います。一方で我々の、通常の市民生活、経済活動と両立をしていかなければならず、それを踏まえてどういった対処方策が必要なのかということを今回、分析の上、提示させていただいております。基本的な対策をしっかり講じていくことによって、この数字自体は抑えていくことができると思っています。例えばですが、学校から多くの感染者が出てくるという状況になれば、それについての対処を準備はしているところですが、そういった状況に陥らない、そして右肩上がりになっている状態をいかに抑え込んでいくかということを、知恵を絞っているというところです。何か特効薬があって、それによって全てが解決していくというのはなかなか難しいという認識を持っています。

（朝日新聞）県からの要請もありましたが、学校の休校を検討されてはいないということですか。

（上定市長） そうですね、状況を見ながら、必要に応じて、休校措置という選択肢もあり得ますが、今はそうした状況にはないと考えております。

（朝日新聞）松江の感染者数の傾斜が急であるというのは、何が理由だと思いますか。

（上定市長 ）感染者が増えれば、さらにそれが増幅していくという状況にあると思います。増えている状況の中で、島根県で見たときに松江の割合がどうしても高くなっているということは、否定できないと考えています。

（読売新聞）ワクチンの3回目接種ですが、3月9日朝の時点で接種率20.5％で、7日時点の全国平均25.83％に対して島根県25.66％であると。3回目接種のこういった数値の状況に関して、どう見られているかをお聞かせください。

（上定市長）接種率は、順調に上がっている状況だと思います。1回目、2回目接種のときも、全国の平均値あるいは島根県の平均値に比べると、それを追っかけていくような形でした。3回目は、2回目接種から6か月がたった方から対象ですので、2回目接種の出足が、ほかに比べてそんなに早くなかったという傾向を引きずることになりますので、今後は順調に増えていくことが見込まれるのではないかと考えています。

（読売新聞）チラシで、現在の感染状況に関して分析したものを配布するということですが、2月から新しく始めたという理解ですか。
（上定市長）そのとおりです。2月26日に初めてこういった形でまとめ、関係各所に配付いたしました。
（読売新聞）定期的にということですが、どのくらいの頻度でとお考えですか。
（上定市長）一、二週間に一度は、その状況に即した感染対策を織り込みながら皆さんに配付していきたいと考えております。
（毎日新聞）クラスターがほぼ毎日、出てくるような状況が続いています。中には学校であるとか、そういったところでのクラスターも引き続き起こっているかと思います。以前に県からの休校要請を断られた経緯もありますが、引き続き休校すべきじゃないというお考えでしょうか。
（上定市長）それぞれの学校で、例えば学級閉鎖、学校閉鎖、学年閉鎖等の必要な措置は行っています。これが、満遍なく広がる状況になれば一斉休校の措置も選択肢としてあり得ると考えていまが、今はその状況にはなく、個別に、学校・教育委員会・保健所等で学校ごとに判断をさせていただくことで感染を食い止めることができると考えています。
（毎日新聞）ご兄弟がいらっしゃる家庭で、下のお子さんの例えば小学校が休校になって、でも上のお子さんの中学校とかは続いている状況も考えられると思います。そういった場合に、例えば学区内の小・中学校だけ連動させて休校するというお考えもありませんか。
（上定市長）そのように対応している事例はあります。例えば、濃厚接触ということになれば、そのご兄弟も出校停止ということになりますし、小学校と中学校が地域に1つしかなくて、非常に連鎖性が強いというところは予防的に休校にしている事例もあります。市内全部の小・中学校を一斉休校ということではなく、それぞれの状況を見ながら最適な休校等の措置を講じております。
（BSS）小・中学校の一斉休校に関連してですが、市長のご判断で、休校の対策を取られなかったということについて、振り返ってみられて、ある一定の効果というのを感じていらっしゃる部分はあるのかというところをお聞かせください。
（上定市長）例えば経済活動や授業を止めてしまうことによって防げる部分はもちろんあると思います。ただ、それを両立していくことを考えたときに、このように増えていますが、教育の現場において爆発的に増えたということが主要因になっているわけではないという分析をしております。教育の現場では必要な対処をしおり、今回、数字は増えているというところはありますが、その原因を探ると、やはり家庭内での感染が中心ですし、色々な施設で広がっているということが見てとれますので、それに対する対応を重ねていくしかないと思います。完全にゼロに抑え込む、そのために全ての経済活動も社会活動もやめるということはできる限りやりたくないです。そういった形ではなく、一気に下がるというものではないかもしれませんが、生活に支障がない形で緩やかにでも抑え込んでいくという努力が必要だと考え、ある程度中・長期的な観点も捉えて、その中でできるだけ経済・社会活動に悪影響を与えない形での感染予防策というのを今後も考えてまいります。
（上定市長）残りの4項目についてご説明します。
1つ目、松江市の職員採用ウェブサイトを公開いたしました。ここに、込めた思いは、職員の多様性と、イ

マジネーションです。私が想像力、あるいは創造性という言葉にこだわっていまして、前に松江市の総合計画で、「ジダイをつくる」の「ジダイ」を片仮名にしたのと若干似ていますが、「そうぞう」という言葉には2つの意味があると思っていまして、イマジネーションとしての想像と、クリエイティブの創造という2つの市役所職員には欠かせないものだと考えており、それを表現したプロモーション動画のせております。「想像にゾクゾク」と「創造が続々」と、また掛け言葉を使っておりますが、ぞくぞくするぐらい想像力をたくましく、そして続々と創造していくとことを職員とは共有しておりまして、これから松江市役所を志していただける学生の皆さん、あるいは現在社会人経験のおありになる方で松江市役所に関心がある方にも訴えていきたいという思いです。令和2年度は342人の方に受験いただき、86人の方を採用し、倍率は4.0倍、令和3年度は343人に対して最終合格76人ということで4.5倍という状況です。学生の皆さん、社会人経験のある皆さんの熱意をぜひとも我々に伝えていただき、一緒に仕事ができればと思っております。プロモーション動画以外に、私が「夢を実現できるまち　誇れるまち　松江」という総合計画の中身に触れた動画や職員のインタビュー動画も掲載しています。この動画の、ロケ地は全て松江市内で面白そうなところを選んでおりまして、松江の名所旧跡も知っていただくという意味も含めての動画となっております。松江市が求める人財像ですが、松江への高い誇りと深い郷土愛が一番重要だと考えております。目指す職員像としては、市民の皆さまの幸せな未来を創造する職員、そして住民の皆さんと一緒に共創・協働の意識を持って行動できる職員、そして知識、経験を積み重ねながら自律的に行動することができる職員、高いコスト意識や危機管理能力を持つ職員といった職員像を、我々も目指していきたいと思っておりますし、そういった資質のある方を求めております。今後は、ウェブサイトを通じて様々な取組を発信してまいります。ウェブサイトのコンテンツも充実させていきますし、フルオンラインでのインターンシップというのを今年度から開催しておりまして、私も時々隠れキャラで出てきております。実際参加いただいた学生の方にも好評を得ておりますので、来年度も引き続き行いたいと考えております。今後は、3月21日に職員採用試験のオンライン・プレ・ガイダンスの開催、就職採用試験説明会を、オンラインで4月26日、リアル開催を4月27日に予定しております。

次が、市民サービスコーナーのイオン松江への移転についてです。現在、市民サービスコーナーは、松江駅前のテルサにありますが、市民の皆さまの利便性を考慮し、イオン松江の既に1階に設置しているマイナンバーカードの窓口に併設する形で3月10日にオープンします。開所時間については、朝9時から夕方5時までとなります。水曜日・年末年始は除き土日もやっておりますので、ぜひご利用ください。

次が、松江市総合文化センターの大規模改修についてです。松江市総合文化センターは昭和61年に開館し、芸術文化活動の拠点としてのプラバホールと、学びの拠点としての市立中央図書館によって成り立っております。開館から35年余りが経過し、老朽化、あるいは耐震のための改修工事が必要になりました。これまで市民の皆さまからアイデアもいただきながら、どういった形で改修するのがいいかということを考えてまいりました。そして、この4月から休館し、改修工事に着手してまいります。具体的な改修の内容としては、プラバホールの大ホールの椅子の更新、図書館のブラウジング・スペースいわゆるくつろぎスペースの拡充、学習室、授乳室、リハーサル室の新設、喫茶室のリニューアルを予定しています。リニューアルオープンの予定は、中央図書館が来年の10月、そしてプラバホールが再来年、令和6年の4月としており

ます。工事に時間がかかるものですから、市民の皆さまには大変ご不便をおかけいたしますが、ご了解いただければと思います。 特に中央図書館については、休館中の対応として、サービスステーションを別途設置します。イオン松江の3階フードコート内で、予約した本の貸出し、本の返却ができる場所を設けます。さらにスティック、市民活動センターの2階にも児童図書の閲覧・貸出ができるスペースを設けます。ここでも予約した本の貸出しと返却も受け付けます。このサービスステーションは6月2日からのサービス開始を予定していますが、本の貸出しに当たっては、まず予約をする必要があり、5月22日から予約受付を、ウェブもしくは電話で開始します。詳しくは市報あるいは市のホームページでお知らせします。そしてもう一つ、松江市には図書館があと2つございます。島根町と東出雲町の図書館です。島根図書館は非常にゆったりとしたスペースでくつろぐことができますし、東出雲図書館は児童書の蔵書が豊富でございますので、今まで足を運ばれたことがない方も、ぜひこの2つの図書館も利用していただければと思います。また、移動図書館というのもございます。巡回の日程表を市報あるいはホームページでお知らせしておりますが、4月、5月は巡回を休止いたします。プラバホール、中央図書館の改修中も、図書館の部分と、それとコンサート等の機会についても、別のホール、あるいはオンラインを利用して、芸術文化活動が継続できるようにと考えているところでございます。

次が、市のホームページの全面改訂に向けたアンケートになります。市のホームページの全面改訂を来年度行います。そのために、市民の皆さまにアンケートにご協力いただきたいと思っております。そのアンケートの中で、市の広報に対するご意見をいただいて、こういった情報をこういった形で出してほしいというリアルな声を反映した上で内容の見直しを図ってまいります。新型コロナウイルス感染症の情報であるとか、あるいは災害時の情報等について、またそれに限らず、日常生活において、こういった情報が欲しい、これだと分かりにくいというような意見も自由にいただければと思っております。期間は3月18日までとしております。ぜひご協力いただければと思います。来年度、ホームページを更新しまして、より皆さんに分かりやすくタイムリーに情報をお届けできるように改善を図ってまいりたいと考えております。

私からは以上です。

（朝日新聞）市民サービスコーナーの移転についてですが、テルサのほうは閉鎖ということですか。

（上定市長）おっしゃるとおりです。

（朝日新聞）移転することで、テルサのときより良くなった部分がありますか。

（上定市長）テルサも駅前なので利便性は高いですが、市民の皆さまが買物をするついでに行政手続もできたらというご要望をいただいておりました。実際、マイナンバーカードの普及促進のために窓口を設置しましたら、市役所で発行するよりも、イオンのほうが便利だということで好評をいただいておりました。サービスの内容が格段に新しくなっているわけではありませんが、マイナンバーカードの窓口と統合して運用することによって、全体として市民の皆さんの利便性を高めるということに主眼を置いて、今回、移転することにしたものです。

（朝日新聞）市民からの要望で、マイナンバーカードの窓口をつくったら、好調なので、出先を統合しようということですか。

（上定市長）そうですね、マイナンバーカードの窓口を設けたらとても好評でしたので、市民の皆さんから

のリクエストを経て併設する形になったということです。
（読売新聞）先般、ロシア軍がウクライナ国内の原子力発電所のほうを制圧しました。島根原発の立地自治体である松江市長として、あのニュースに関してどのように受け止められましたか。
（上定市長）非常に残念なことですね、2月24日にウクライナにロシア軍が侵攻したということ自体、あってはならないことだと認識しており、こういった武力行使によって世界の課題が解決するわけがないと思っておりますので、強く抗議したいと考えています。原子力施設に対する攻撃による火災というのも、テレビや新聞の情報ですが、そもそも武力で政争の解決を図ろうとすること自体が大きな間違いですので、原子力施設にかかわらず、いかなる武力行使も認めてはならないと考えています。
（読売新聞）先月、上定市長は島根原発2号機の再稼働に関して同意する旨を表明されました。その同意に至るまでのプロセスの中で、こういった武力攻撃というのは想定の中には入っていますか。
（上定市長）原子力規制委員会等で新規制基準をつくるに当たって、いわゆる9.11のようなテロの攻撃については織り込んだものと認識しています。そもそもそういったことが発生すること自体を看過することは許せない話であり、武力が行使されるような世の中になってはならないと思いますので、そういった観点で、政府には働きかけを期待しますし、あくまで平和的な解決に至るような手段が講じられることを強く願っております。
（読売新聞）例えば松江市として何か義援金の募集であったりだとか、何かしらの対応のお考えはありますか。
（上定市長）ご存じかもしれませんが、全国の市長会として、知事会等と連名の形ですが、2月25日に声明を発表しています。松江市としての対応についても協議しているというところで、同じ思いを持つ自治体もあろうかと思いますので、調整を図り必要な対応を取ってまいりたいと考えております。
（読売新聞）松江市として何かしらの声明を出すことを検討されている。
（上定市長）そうですね、出す可能性はあると思いますし、松江市としてだけではなくて、横のつながりの中でも検討するべきという認識を持っております。
（読売新聞）東日本大震災の発生から11年になろうかと思います。昨年、福島原発も視察されましたが、改めて原発事故の教訓を立地自治体としてどのように今後生かしていきたいかを伺いたいです。
（上定市長）去年の10月に、福島を訪問し、福島第一原子力発電所も東京電力の方に案内していただきました。その中で、そのときに得られた教訓を生かしていかない手はないと強く感じましたし、こういった事故が再発することが決してあってはならないという思いも強くしているところです。今回の島根原発2号機の再稼働の判断に当たっても、事故の教訓を踏まえた上で判断のプロセスには組み込んでいるつもりでして、その中で、当然そういった事故が再発しない、安全が確保できる状況を維持、継続していかなければならないという思いを強くしているところです。